

コーディネーター



狩野 光伸

岡山大学
副理事・SDGs 推進企画会議 議長
日本学術会議 会員

コメンテーター



岩田 裕久

岡山市
SDGs・ESD 推進課
課長



岡崎 真之

若手経営者の会
「おかやま PRODUCE」
株式会社イノテック
代表取締役社長



北脇 藍紗

岡山県 JICA デスク



榊原 浩太郎

(公社)倉敷青年会議所
株式会社 A-COMPANY
代表取締役社長



重成 啓子

株式会社山陽新聞社
編集局 報道部 副部長



田賀 朋子

jam tun / ジャムタン
～アフリカ布を通じた
セネガル支援～



藤木 茂彦

(一社)岡山経済同友会
株式会社丸五
代表取締役会長

主催：株式会社岡山コンベンションセンター

企画運営：株式会社ありがとうファーム

後援：岡山市、国立大学法人岡山大学、岡山商工会議所、一般社団法人岡山経済同友会



8月4日(水)
高校生SDGs交流会

第1部 (企業訪問)
企業4社、生徒4校25名

<企業>

- ・株式会社アイスライン
- ・株式会社中国銀行
- ・服部興業株式会社
- ・リコージャパン株式会社 岡山支社

<高校>

- ・岡山県立岡山一宮高等学校 (10名)
- ・岡山県立岡山工業高等学校 (6名)
- ・岡山高等学校 (7名)
- ・倉敷市立精思高等学校 (2名)



第2部 (活動発表)
参加5校7グループ23名

各発表に対してそれぞれコメンテーター3名とコーディネーターからコメントをいただいた。



1, 岡山高等学校 「岡山高校スパイダーズの取り組み」

★SDGs 17 の目標該当番号：1.2.3.4.11.17



< 榊原 >

- ・ズームでできること、実地でしかできないこと、人に会ってしかできないことを感じたのではないかな。小学生はこちらが楽しまないと分かってくれない。
- ・持続可能な活動を続けていくためには気持ちだけでは持続できない。売り上げの一部を活動費に充てていくという目線からも SDGs を見ていってほしい。

< 重成 >

- ・自分たちの幼い頃の経験を生かしているという、自分たちも楽しいと思える活動をすることは継続していく上で大切な要素。
- ・拠点が身近にたくさんできていけば子どもさんにとっていい機会になると思う。こういう交流会をきっかけに（他校に）取り組みを呼び掛けて仲間を増やしてはどうか。「スパイダーズ」という名の通り、蜘蛛の糸のようにネットワークを広げていってほしい。

< 藤木 >

- ・関係人口という点で、オンラインで返って活動が活発になったように見えるが、学校の中でもそうした関係人口が増えていけばよい。

< 狩野 >

- ・SDGs の捉え方として、「目標の達成によって、それぞれの人は自ら得意とし実現したいことがもっと実現できるようになる」「その結果として、自分では得意としないが実現してほしいことを、そのことが得意な誰かに実現してもらえ人が増える」という考え方ができると思う。今の場が使えなくなってもまた次の場を作って取り組んでいってほしい。

2, 倉敷市立精思高等学校① 「本校のSDGsに関する取組」

★SDGs 17の目標該当番号：1.2.11

※発表辞退

3, 岡山県立岡山操山高等学校 「孤食解決に向けた子ども食堂の発展」

★SDGs 17の目標該当番号：1



<岩田>

- ・日本の場合、相対的貧困という数値が世界の中で比較的悪い。子どもたちが孤立しないような支援を行政も行っているが、社会全体が支える仕組みづくりが必要。
- ・調査結果を何らかの形で私たちも知ることができるようにしてほしい。HPでも立ち上げたらこんなことを載せたということを知らせてほしい。
- ・充足率の低いところを今後どうすればいいのか、子ども食堂をどういった仕組みにしていけばいいのかということも考えて、調査をした後の次のステップにも取り組んでみてほしい。

<北脇>

- ・子どもに一人でご飯を食べさせたいと思っている家族はいないはず。子ども食堂という一人で食べている子どもと一緒に食べようという場所を作ることも必要かと思うが、そもそも子どもと家族が当たり前のようにご飯が食べれない働き方というのも問題なのかなと思う。
- ・独居老人も増えている中で、なかなかその異変に気づけなかったりとか、そういった方面も研究してみしてほしい。

<榊原>

- ・実際に子ども食堂に足を運んでいたらまた違った調査結果になったかもしれない。倉敷青年会議所で取り組んできた実体験から、子ども食堂がかわいそうなところではなくて楽しいところ、遊びをくっつけることでそこがたまり場みたいになっていくことで子ども食堂の発展につながると思う。
- ・違う高校とつながることで関係人口というつながりになっていくのかなと思う。

<狩野>

- ・SDGs をどうやって身近なものに置き換えながら取組を一緒にやっていくか考えてみてほしい。SDGs を「お題目」というよりは「自分が解きたいものがあつたときに同じ経験のままで考えていくことができるのではないか」と考えることを提案したい。
- ・何かの物事が、原因と結果の関係にあるのかどうかしつかり証明しようとする結構大変だ。けれども、その証明の作業を身に着けていくことで、原因の物事を変えると、結果の物事が変わる、ということが見えてくるだろう。その方法を学んでいってほしい。
- ・孤食はこういう問題点がある、ということを決めかかっていたが、本当だろうか？他にも何かこういう関係をもたらす別の要因があつたりするのではないか？何を前提にしているか、その中身は正しいか、それをきちんと確認しながら設定していかないと、対策がまちがったりとか、それでたくさんのお金を使ったりとか、初めしたかったことにつながらなかつたりということが起きる。他にも関係する要素があるだろう。こうしたたくさんのおもひをつく要素をまず書き出し、それらの間にどんな関係があるか、とりあえず図として描いてみよう。そうして社会にある問題を解いていく、そういう人がだんだん増えていって、どうしたらいいかがだんだんはつきり分かってくるといい。

4, 岡山県立岡山一宮高等学校① 「反射材で減らそう！交通事故」

★SDGs 17の目標該当番号：3



<岡崎>

- ・特に死傷者数が多い小学校低学年のお子さんにかにしたら身に着けてもらえるかがポイント。著作権とか肖像権とか大人の事情があるんだと思うが、提案としていろんな企業さんにこうした活動に参加していただく仕組みを作って、子どもさんが着けたいものを実現できればいい。例えば集英社など大手の出版社に持ち込んで、ワンピースとか鬼滅の刃とかあいうキャラクターもので、それは企業のイメージアップにもつながるので、企業が理解し協力してくれると子どもさんが着けたいキャラクターをきちっと許可を得たうえで使うことができる。また、ファッションブランドで GAP とか大手のファッションブランドさんとのコラボレーションで女の子もオシャレに着られるものであつたりとか、とにかく反射材というものに乗っかってくれるオフィシャルスポンサーを味方にしてこれが流行るくらいの企画になれば交通事故を減らすことも実現していく。是

非大人たちを巻き込んで成功させてほしい。

<田賀>

- ・車を運転した経験がない方とか普段登下校して歩くだけの方は暗い時間に歩くことの危なさをどれくらい感じているのか、どれくらい意識しているのか気になった。ただ反射材を持った方がいいよと言うだけでは、それがどんな危なさにつながっているのか分かりにくいので、アプローチの仕方もうどういう危険があるのか知ってもらうことも大切。
- ・大きくなるとキャラクターものもいいとか逆に持ちにくかったりするので、反射材を持つということから一旦離れて、こういった色の服を着ると危険が減るとか身に着けるかっこうについて調べてみても面白いと思う。
- ・小さいうちは歩かせないかもしれないが、塾に行くようになったり中学生、高校生になって部活動を始めた時に一人で帰宅せざるを得ない状況があると思うので、そういう小さいお子さんを持っている人に、今は大丈夫でもこういったことにつながるかもしれないので習慣づけた方がいいとか、そういう伝え方というのも色々切り口があるのかなと感じる。ただ楽しいからで終わると、作ったものがどういったことに役に立つのかということまで伝わりにくい可能性があるので、遊びながら危険について話をしたり交通安全教室と一緒に開催するワークショップのような形にしてもいいかなと感じた。

<藤木>

- ・機能はいいけどデザインは大切だということは再認識したと思う。ジャムタンさんの生地にも白とか黄色とか紛れ込ませたらいいものができるのかなと思った。

<狩野>

- ・掴みや展開がいい。それと色々な関係者の声を聞いていて、しかもこの研究で想定していたのとは違う方向の内容、答えが返ってきたということもちゃんと共有していることで、内容の信頼性を上げている。信じていい内容だなと思わせるいい内容だった。どうしても自分のやりたい方向が決まると、それに合わない内容は紹介したくなくなることもあるだろう。しかしそうすると都合の良いことだけが並んでいると感じられて信じる人が減る。合う内容と合わない内容の両方が入っていた上で、でもやった方がいいんじゃないかと言われると、共感する人が増えるのでは。
- ・「刷り込みでかっこよくなる」こともあると思うが、他方で刷り込みしそびれることもあるだろうし、刷り込みされても別の方がかっこいいと思うこともある。補聴器とか杖とか車椅子とか、あまり数は出ないがそれを必要とする人がいる製品で、デザインにお金がかけていないのかなと思ったりすることがある。メガネなどならたくさん数が出ているから色々デザインに優れたものもあるだろうが、これらではカッコ悪いことも少なくないのでは。使いたいと思う工夫はどうしたらいいか。一例として、オリンピックの入場行進で国の名前を紹介するのに漫画の吹き出しを使っていた。著作権の確認は要るだろうが、例えば、あそこが反射材になっているのを作ったら、

使いたくならないかなと思った。

5, 岡山学芸館高等学校 「母国語による日本語学習法の違い」

★SDGs 17 の目標該当番号：4.17

「性の多様性×教育」

★SDGs 17 の目標該当番号：4.5.10

※発表辞退

6, 山陽学園高等学校 「瀬戸内海の海洋ゴミ問題の解決に向けての取り組み」

★SDGs 17 の目標該当番号：4.10.12.14.17



<岡崎>

- ・環境省主導でプラスチックスマートということで企業がどうやって環境改善につなげていけるかという取組があるが、若手経営者の会で企業にどのようなことができるのかやっている。ごみを出さない取組の一つにエコペイバッグということで、家庭にある不要な布を使ってマイバッグを作っていただいて、応募してエントリーしていただくとかオカードを差し上げるということで、岡山市の協力のもと市内の全小学校に配って、小学生のお子さんがそういう活動に興味を持っていただくという啓蒙活動として行った。また、水質改善のプロジェクトもやっていて、廃材を利用して水を循環させてきれいにしてもどすということも始めている。何か見直せることがないか考えていくことが重要だと思う。高校生が企業を訪問されたりして直接呼びかけるとそれに答えなければと思う。

<重成>

- ・説得力を持たすという意味で多方面から取り組んでいると強く感じた。山陽新聞でもこの問題を取り上げており、お米の肥料に使うプラスチック殻が知らぬ間に用水路から海に流れ着いているという問題提起をした。その取材の中で印象的だったのが使っている農家の方が、自分たちがごみを出していることに気づいていなかったということ。人ごとではなく自分事として捉えるための問題提起は必要だと改めて感じた。
- ・倉敷市は新見とか高梁とか総社とか、そういう海がない地域の子どもたちにも、自分たちの出した

ごみがもしかしたら川をつたって海を汚しているかもしれないことを啓発するための絵本作りに取り組んでいる。岡山県には高梁川だけでなく旭川や吉井川もある。県内の多くの子どもたちにこういう現状を知ってもらうため、皆さんの活動が何かプラスに働いてもらえたらと思う。

- ・今回は使う側の責任をクローズアップしているが、「つくる責任」として企業側も環境問題は避けて通れない。企業側にもアプローチすれば活動の幅が広がるのではないかと感じた。

<藤木>

- ・調査することはいいことだが、地域の人と自分事にしようということをするのであれば、どこか調査場所を決めてその地域の人と一緒に、どれだけ減ったよと住民の人と喜んでいくような活動もいいのかと思う。

<狩野>

- ・SDGsはしたいことが分かっているけどどうしたらできるか考える取組だ。自分は分かっているがそれを人に伝えて動いてもらうという、行動変容を促す仕事はたくさんあるが、その実現はそう簡単ではない。今まで経験されてノウハウがたまってきたと思うので今後活かしてほしい。

7, 岡山県立岡山一宮高等学校② 「バーチャルウォーター&ドギーバッグ」

★SDGs 17の目標該当番号：6.12



<北脇>

- ・日本の農家さんの高齢化が進んでいたりすることにも着目して、地域おこし協力隊で農地に入っている方たちと一緒にしてみるのもいいかと思った。学食があるのだったら学食のおばちゃんたちとがんばって地産地消のメニューをしてみたり、せっかく同じ場に集まっているのでどういう風にテーブルフォーツの先輩にアプローチしたのか情報交換しながら色々やってみてもいいのかなと思った。

<榊原>

- ・ドギーバッグを作るのにもお金がかかってしまう。作る材料をどこかの会社に行って廃材をいた

できれば、それが企業さんの廃棄するであろうものが新しいものに生まれ変わる、フードロスやゴミが少なくなることにつながる。もっと踏み込んでいけばドギーバッグに社名を入れるのでスポンサー料をいただけないかということでお金をもらえれば次の事業につながるのかなという、これから先はそういう事が大事になってくる。

<田賀>

- ・日本の食べ物だったら水分を含んでいたりお米だったりとかが多いと思うので、持ち帰れる食品の素材について検討しないと持ち帰れないものはあるかなと感じた。作るというワンステップが入ってしまうので、そこをなくするか今まで自分たちが持っていたものを改良出来たりとか、学生の時に使っていたお弁当箱を使えるようにしたりとか、ネーミングも食べ残したものを持ち帰るといことが言いにくい文化とか恥ずかしいという面もあると思うので、例えばお店側にアプローチして張り紙一つでもお声がけくださいとか、持ち帰りできますというようにお店側からアプローチできる仕方もあるかと思う。
- ・セネガルでは持ち帰りが自由で、自分の家から鍋とかお皿を持って行ってお店で食べて残ったらそのまま持って帰ることもあったので、日本だと遠出して飲食して帰る場合は難しいと思うが、例えば常連さんとか近所のお店に行くときに、残すかもしれないということであらかじめ何か容器とか持って行くというような方法とか、そういうことができるお店を増やすという、消費者側ではなくてお店側にアプローチするのもありかと感じた。

<狩野>

- ・クイズでゲーム性を持たせたりする発表は、聞き手の行動変容を促すかもしれない。
- ・立食パーティーで料理が残ったりする場合に、お店の方が衛生上の問題が起きるとお店のせいになってしまうので持ち帰れませんという返事が結構あった。それは、持って帰った人が自分の責任で、食べられそうになかったら食べるのは止めます、お店の責任は問いません、ということができないと、上手くいかない気がする。日本では本人が責任を取るのではなく、サービスの提供側が責任を取らないといけないというところが元にあるような気がする。社会全体がサービスの受け手にも提供側にも応分に責任があると思っていてくれないと難しいことがある。そちらの方向に社会が変わっていくように工夫をお願いしたい。
- ・「もし〜でなかったら、どうなるだろう」という考え方がバーチャルウォーターの元だと思う。ビッグデータの解析などに活用されている考え方で「反実仮想」というので調べてみてほしい。

8, 倉敷市立精思高等学校② 「学校を地域防災の“HUB”にしよう」

★SDGs 17の目標該当番号：11



<岩田>

- ・防災は地域の自主防災組織の存在が大切で、普段から地域において避難訓練なども行っている。皆さんが今回作っていただいたものは、小学校での学びの場で使えるのかなと思う。せっかく作ったものを活用していく方法を、次のステップとして考えてほしい。
- ・避難所に避難するタイミングはなかなか難しいものがあって、家にいた方が安全な場合もある。早めの避難が重要であり、設備も充実させる必要がある。そういうところを住民に知ってもらうための啓発が非常に重要になっているので、そういうことも考えていただけたらと思う。防災はこれからの課題としてずっと残るので、学んだことや活動を後輩にも繋げて、作ったものを活用して持続可能な防災活動を行ってほしい。

<岡崎>

- ・西日本豪雨災害で牟佐の自社工場が腰まで水につかった時に、古くから住んでいた人はそもそも家を高く建てていた。数十年前にもこんなことがあったのでそういう風に建てているということだった。後から行った者はそんなことが分かっていなくて、そういうことが町内で共有されていなかったり、意識のある方ない方で防災の仕組みがなかったので、水害があって初めて知ったことではあるが、そういう情報が地域の中でも伝え合う事が難しくなっているのかな、コミュニケーションが薄くなっているなということはずごく感じるがあった。中国の河南省にも工場があるが、3年経ってまた工場が水害に遭っているが、これは建てる時に情報があって、この辺り水が来るよと言う情報を聞いていたので、工場を建てる時に70センチ高く、ぎりぎりのところで間に合わせて上げたところ、今回は駐車場までつかったがギリギリのところに入らなかった。それは情報をきちっと取れたということが幸이었다。いかに情報を取れることが大切なことかなということをもつて経験した。地域の連携という事は難しいと思うが、小学生や高齢者の目線になってということは本当にいいことで、独り暮らしの年配の方とかなかなか情報を取りに行けない方々に災害時の避難場所とか連絡先とか、当たり前のように知っているかなと思うことも実は分からなかったりすると思うので、そういうことができる皆さんの行動力とか若さや活力を生かしてもらって幅広く呼び掛けてほしい。皆さんが声掛けされると全然不審に思われれない。温かく迎えられし素直に聞かれると思うので、そこが大事で皆さんが持つ武器を生かして、是非地域の方々と一緒に

なって災害に備える生きた活動を続けてほしい。

<重成>

- ・水害の経験を基に倉敷市の高校の皆さんが自分たちに何ができるのかということで、避難所の立ち上げを考え、継続して取り組んでいることは心強い。高校の周りを見てみると高い建物がすごく少ないので3階建ての校舎を持っているという特長を生かして避難所にしていく発想は非常に重要なことだと思った。
- ・高齢者の方が周辺に多いということだったので、取り組みを浸透させるためにも、随時回覧板とか会合とかで進捗を伝え、いざというとき学校に行けば良いという安心感を与えてほしい。

<狩野>

- ・貴校の皆さんが取り組んでくれているということに、まずはすごく意味があると思う。「世の中の当たり前」に合わせようとしても、合わせられないという方々もおられるだろう。その経験の結果として、世の中の人々が「見ないようにしている」あるいは「見えていない」側面が「見える」という経験をしている人も大勢いると思う。災害の時には、そういう方々も社会と一緒に構成しているわけだから、社会の隅々まで届くには、そういう人たちにも届くメッセージにしないといけない。周りの人が当たり前だと思っていることに、努力しないでも合わせられる人だけに対象を絞っていると、うまく伝わらない人がでてくるだろう。そうしたことを、皆さんやその近くにおられる方々はより敏感に感じることもできるかもしれない。そうであれば、ぜひ生かしてほしい。最近のパンデミックや災害などは「当たり前」から外れている。過去に当たり前でないことを見たことのある少数の人の中で智恵として残っていることがある。そういう知恵を繋いでいくことが大事。ほかの人が当たり前だと思っていないこともうまく展開して、その結果としてより色々な人が住みやすい社会にすることに貢献してほしい。

9, 岡山高等学校② 「米作り×エシカル消費プロジェクト」

★SDGs 17の目標該当番号：12.14.15.17



<岩田>

- ・最初の作りから最後の普及まで素晴らしいパッケージになっていると思う。エシカル消費はSDGs

の達成に向けて非常に身近な取組。毎日の購買活動は誰でもする。その中でちょっと考えるだけでSDGsに貢献できるという非常に身近な、多少のお金のプラスはあるかもしれないけど、自分の考えだけでやろうと思えば準備もいらずに誰でもできる手軽な取組で、それを皆さんに意識してもらうことが非常に大事。

- ・通常廃棄する材料を活用して商品化するという動きも、分野はいろいろあるが上手に活用している。商品化したものを発信することがポイント。せっかく努力して作ったものを皆に知って食べてもらいたいと思うので、流通チームやイベントチームの活動が非常に重要。いろんなところで広がりがあると考えられるので、是非最後までやってほしい。それがみんなのモデルケースになると思う。
- ・クリーンエネルギーを使うということがポイント。脱炭素社会の実現に向けてソーラーパネルもこれからどんどん進化していくと思うので、そうした情報を捉えながらクリーンエネルギーを使って商品を開発した点がよかった。企業さんも脱炭素社会の視点は考えていると思うので、そういう社会の流れも考えながら自分たちのプロジェクトを最後まで完結してほしい。

<北脇>

- ・生産から流通まで関わっていて素敵なプロジェクトだと思う。里海、里山とセットでされているが、里山側では牡蠣殻を使って肥料にしているとかやっている感があるが、里海側で里山の話あまり聞かない気がする。日生海ラボという渚の交番事業の一環で海洋研修施設がじきオープンする予定になっているが、そこにも国際交流関係の地域おこし協力隊さんが入って活動しているので、そういったところとパートナーを組んで里海と一緒に広報していったりとかも面白いと思う。
- ・SDGsは仲間が多ければ多いほどいいんじゃないかと思っている。今日の発表者の中でも一宮高校がバーチャルウォーターから地産地消をしていたりとか、操山高校が子ども食堂について調べていたりとか、皆さんの発表の中でも関連したところがたくさんあったと思う。この後インスタなりラインなり交換してみんなで出来る事があったら続けてほしいと思う。

<田賀>

- ・牡蠣殻の効用とかがあるのであればパッケージ化したり商品の宣伝をするときに廃材を使っているのではなくてこういうメリットがあるということもしっかりアピールしたら消費者に届きやすいかと思う。
- ・エシカル消費と言うと聞こえはいいが消費者の目線で言うとやはり価格が第一に気になる場所であったりとか、いかに身近なところで売られているとかいうことも関係してくる。フェアトレードの活動をしていて商品自体はよくても、見られるのは価格であったりとか品質や味であったりとかすると思うので、消費活動の意識を変えるという面では意識の高い人だけではなくて一般の消費者も巻き込めるという点でSDGsの関連活動が非常に役に立つというか意義のある活動だと思うので、エシカルをやりつついかにそれを達成できるかということも大切なところかなと思う。
- ・社会にいいことをしようとするとうと価格が上がってしまったりとか、手間がちょっと加えられて人件費や手間暇がかかってしまうということは、どんなことをするにおいても難しい点だと思うの

で、他の物より価格が張るけれどもこういう意義があるという面をどう伝えられるかということがキモになってくる。

<狩野>

- ・倫理的という言葉は、いろんな人が大事に想っていることをなるべくたくさん知って、それぞれ想像力を働かせながら大事にし合おうということかなと思っている。そういう意味でいろんな関わる人たちが大事だと思っていることをみんな聞いて、その結果としてやれることを一生懸命やっているということで、一連が繋がっている、いい取組だと思った。
- ・SDGsの17個でも頭がいっぱいになる人も多いが、いろんな人のいろんな大事なことを頭に入れようとかすると情報で頭がいっぱいになって入って来ないかもしれない。それで情報を出しても取り入れられないことがあるのだと思う。大量の情報の中で、どれを信じてどういかにしたらいいだろうというのは難しいと思うが、一つの対処は、情報をなるべく圧縮するためにストーリーを作るといいという考え方がある。何かの物語を作って、このお話を聞くと意味が分かったという方法だ。その物語が事実に基づいているノンフィクションのストーリーももちろん使ったらいいし、始めから事実とは違うということを断った虚構の世界だがメッセージは本当だ、というフィクションの物語にする手もある。そのいずれかの方法で今日の発表の一連の方法が受け止めやすくなるような物語をもし作れたら、より伝わっていくかもしれない。

まとめ

<狩野>

- ・SDGsは難しいとよく言うが、簡単にする捉え方を提案する。「それぞれの人が違う発想で、違う大事さを持ちながら、でも同じ目標を追いかけている」ということを伝えられる良い表現としてのSDGs。実際に、今日も様々なコメンテーターの方々ともつながっているという経験をしていただけていたのではないかな。いままでは別々の「箱」の中に住んでいた人たちかもしれないが、このSDGsという言葉を使ったおかげで、それぞれの「箱」から飛び出て、新たなつながりが作れている、という点で非常にいいのかなと思っている。これまでの枠組みの中では元気を持ちそびれていた人たちがいたとして、それがこのSDGsという表現を使って新しい元気を持つことができたらよい。外の地域から見てもそれは魅力にうつるだろう。

「おかやま SDGs プラザ 夏の交流会 2021」
 高校生 SDGs 交流会
 ～ 8月5日(木) プログラム ～

10:00～11:30

第1部 (企業訪問)

【参加企業】

株式会社おもちゃ王国	株式会社ストライプインターナショナル
株式会社フジワラテクノアート	株式会社リプロ

【参加校】

(計4校21名予定)

岡山県立岡山工業高等学校 (6名)	岡山県立岡山瀬戸高等学校 (2名)
岡山県立岡山東商業高等学校 (7名)	就実高等学校 (6名)

13:00～16:15 (途中15分休憩あり)

第2部 (活動発表)

- 1, 岡山県立岡山東商業高等学校① 「エシカル消費を考慮した商品開発」
- 2, 岡山市立岡山後楽館高等学校 「ユニスポで地域を元気に」
- 3, 岡山県立岡山工業高等学校学校 「産官学で取り組む『岡山道路パトロール隊』」
- 4, 山陽学園高等学校 「瀬戸内海の海洋ゴミ問題の解決に向けての取り組み」
- 5, 岡山県立岡山東商業高等学校② 「制服残布の活用について」
- 6, 岡山県立瀬戸高等学校 「EVERY PAN ～X'mas cake～」
- 7, 岡山学芸館高等学校 「環境政策に関する研究」 ※発表辞退
- 8, 岡山県立岡山南高等学校 「制服の廃材で作る防災グッズ」

コーディネーター



狩野 光伸

岡山大学
副理事・SDGs 推進企画会議 議長
日本学術会議 会員

コメンテーター



岩田 裕久

岡山市
SDGs・ESD 推進課
課長



重成 啓子

株式会社山陽新聞社
編集局 報道部 副部長



高田 さゆり

岡山シーガルス株式会社
取締役



田賀 朋子

jam tun/ジャムタン
～アフリカ布を通じた
セネガル支援～



高畠 裕介

(公社)岡山青年会議所
株式会社ライフスタイル
ギャラリー
代表取締役



藤木 茂彦

(一社)岡山経済同友会
株式会社丸五
代表取締役会長



守都 未来

国際コーディネーター
(前 岡山県 JICA デスク)

主催：株式会社岡山コンベンションセンター

企画運営：株式会社ありがとうファーム

後援：岡山市、国立大学法人岡山大学、岡山商工会議所、一般社団法人岡山経済同友会



8月5日(木)
高校生SDGs交流会

第1部 (企業訪問)
企業4社、生徒4校21名

<企業>

- ・株式会社おもちゃ王国
- ・株式会社ストライプインターナショナル
- ・株式会社フジワラテクノアート
- ・株式会社リプロ

<高校>

- ・岡山県立岡山工業高等学校 (6名)
- ・岡山県立岡山瀬戸高等学校 (2名)
- ・岡山県立岡山東商業高等学校 (7名)
- ・就実高等学校(6名)



第2部 (活動発表)
参加6校7グループ24名

各発表に対してそれぞれコメンテーター3名とコーディネーターからコメントをいただいた。



1. 岡山県立岡山東商業高等学校① 「エシカル消費を考慮した商品開発」

★SDGs 17の目標該当番号：2.8.12.15



<岩田>

- ・エシカル消費は SDGs の中でも非常に身近な取組。消費行動というのは毎日何らかの形で行うことが多い。その時にちょっと考える、お金は少し余分にかかるかもしれないが、本当に簡単にできる SDGs の取組で、もっともっと広めていく必要がある。市民の方に知ってもらい、そこから日頃の消費活動の中で気づきにつながればいいと思う。
- ・地産地消のクリスマスケーキとかは様々な企業でもやられてきていることなので、もう一手間ほしいなという気がした。例えば地元の生産者が分かるように、その人たちの顔が見えるような、生産者のコメントがあるような商品は結構いいイメージになる。それを企業さんが行うとどうしても人件費とかがかかるが、皆さんががんばればお金がかからずにそういうことができる可能性があるのではないかと思った。せっかく商品化したら PR もしっかりしてほしいし、高校生が独自に考えてこんなものやってみようというアイデアをどんどん実践して PR していけばいいと思う。

<重成>

- ・栽培から商品化、販売まで一貫して取り組むというのは非常に興味深い。ここまで環境への配慮を訴えている商品なのでパッケージも思い切り簡素化してはどうか。販売の日を楽しみにしている。
- ・高校生が開発した商品、また高校生が環境への配慮を訴えることは、すごくアドバンテージがあると思う。販売の成果も大事だが、まずは買い物される方にこうしたエシカル消費を知ってもらう機会とし、そこをしっかりと伝えてほしい。

<高島>

- ・まずゴールの設定をどこにしているのかということについて、商品の方にフォーカスしてプレゼンテーションされたと思うが、休耕田を活用していくためにはこの商品が売れていき、その売れたお金がまたこの休耕田の活用につながっていくということが持続可能性の内容にもなってくるのかなと思った。休耕田の活用とともに作る責任、使う責任、陸の豊かさ、飢餓をゼロにとか、こういったものも SDGs の取組が個々にあると思うので、作った商品を買ってもらうということで企業側にも価値が残って来るし、また作られた商品をどのように届けていくのかという観点でも、まだまだこの SDGs を深掘りしていけばもっとよりいい SDGs になるのではないかなと感じた。

- ・一方的な観点ではなくて消費者エシカル消費という部分で認知してもらうことは、会社経営の中でも難しさを感じている。商品力や価値をより高めていけばもっといろんな価値観が出てくると思うので、一方的な判断ではなくていろんな顧客のニーズであったりとかそうしたものもしっかり捉えてもらえればいいと思う。

<狩野>

- ・いろんな視点をもった時に自分たちの取組はどう生きるのかなというのをより広げていっていただけるとよいなあと思いながら伺った。こういう新しく商品を作ったとする。買いに行くかどうか何で決めるか。自分たちや家族も買い手で、その視点から見た時に何かもっとうしたらよさそうとか、どうやったら買うかとか、価格がいろんなものがお店に並んでいるときに高めのものが欲しくなるのはどういう時か、簡素なパッケージにした方がこの内容に合っているのではないか、といったコメントを生かすとするとどうするか。ストーリーで人は動く時がある。何か大きい物語があってその役の一部を演じていると思うとお金を払っても買ってくれる人もいるかもしれない。体験することの大切さ、その時にエシカルという言葉は横文字だがそれが分かりやすい言葉でパツとつながると買い手が増えるかもしれない。
- ・新しいものを作っていくときに答えのあるものに挑戦しても仕方ない。答えのないことを探してお互い言い合って作ってみるのがいいなと思った。また、いろいろ学んでいくときに、何か立ち止まってその話本当かなあと思うと、実はよく考えたら理由が分かっていないものはよくある。ここは本当かなあと思った時に次にいいアイデアが来るかもしれない。ほかにもつながるとしたらどんな可能性があるか、ということを考えていくともっと面白い展開があるかもしれない。時間があるときに、本当か、と一度立ち止まって考える機会を意識して作ってほしい。

2, 岡山市立岡山後楽館高等学校 「ユニスポで地域を元気に」

★SDGs 17の目標該当番号：3



<高田>

- ・障害者のスポーツ教室なども行かせていただいている、いろんな方と交流しているが、楽しいですよとか一緒にやりませんかという軽い言葉で参加していただけるわけでもなく、どういうふうに関心をもってもらえるかなというのはすごく難しいと感じている。ストレッチ教室をやっている、

それをストレッチとかスポーツとかいうと敬遠されるが、実際出て来られた方が休憩時間にお孫さんの写真を選手に見せて笑ったり、それが心をほぐすというか、きっかけをもらったことを少しでも可能性があればやってみるということはすごく大事だと思うし、小さいうちにこうしたスポーツを知ることは大事だと思う。

- ・県内にたくさんスポーツチームがあるが、そういうチームとのコラボとかどうだろうか。ホームゲームで7週あるし、何かできることがあれば展示でもいいし体験コーナーでもいいし一緒にさせていただくことがあればいいと思う。

<重成>

- ・障害者の社会参画への壁については同感。なぜかなと思った時、日本のユニバーサルデザインというのはさまざまところで遅れているなど感じている。例えば海岸。誰もが砂浜を安全に移動して波打ち際までアクセスできるような環境が整っていない箇所が非常に多い。海外だとビーチにスロープがあったり、マットが敷かれていて車いすやベビーカーを利用する人、杖を持っている方でも安全に楽しめる環境があったりする。こういう整備の遅れが障害者の社会参画の壁だったり、障害者スポーツに参画する人が少なかったりというところにつながっているのではないかと感じる。
- ・より身近な場所で健常者の方にも体験してもらおう仕組みづくりに、皆さんが何か携わることができれば良いと思う。皆さんが指導的立場になって私たちに教えてくれるとか。コロナ禍で運動不足になっているし、気軽にどんどんスポーツができる場が増えたらいいと思う。

<岩田>

- ・今回フィールドワークでいろんなところに行って、その中で自分たちの考えを変えていき、障害者スポーツというところからユニバーサルスポーツの方にといい、これが非常に大事だと思う。前提を通すのではなく学びの中で自分たちを変えていくということが非常にできている。最終的に自分たちで小学生対象の体験会をしたという実践までつなげていくとともに、その過程で自分たちのアイデア、研究の成果、学びの過程の中で変容していくということが非常にいいと思う。
- ・岡山市の障害者体育センターでは、いろんな体験をする機会とか教室があったりする。そういうものも利用できるかなと思うし、施設的に使えるところは使うということが一つ考えられる。
- ・小学生にアンケートを行ったのと同じように、今度やる高校でもアンケートをしてみたい。そうすると小学生とはまた違った意見が出てくると思うので、そういうものも大事にしていく、その中で今後の継続が一番大事かと思う。持続的な取組にしてほしい。

<狩野>

- ・研究のところはアンケートとかインタビュー、実体験もされていて机上の空論ではなくてよい取組。なぜ研究するのか。それは自分だけが思っているのではなく他の人も同じように思うかも、というところを証拠として見せていく必要を感じるから。自分が人と同じところはどこで、違うところはどこかを考える仕事。今回のテーマもそういうものかなと思った。私たちの国だと、同じと違

うを、個々人が全部が同じか全部が違うかという分け方をしがちな印象がある。だが、もし「障害をもっていると、持っていない人とはすべてが違う」という受け止めをするのではなく、もう少し要素に分けて、「人間はいろんな部品からできているが、何かの物差しに当てるときに、その物差しの中で「いい」部品とされるものと「そうでない」とされる部品の組み合わせでできている」と考えてみる。そうなったときに「障害ってなにか」という視点で見たらどうだろうか。例えば「目がみえにくい」という状態は、目という一つの部品だけの状態が違うとも言える。他のところは同じなんだけど、それを生かしているか。どうやって生かしたらいいか。スポーツであれば、障害があれば全部が自分たちよりできないかもしれない、その結果全部を下げたようなスポーツにしましょう、ということにされている気がするが、本当にその方がいいのだろうか。状態が似ている「部品」を全活用するスポーツというのもありうるのでは。耳の聞こえないチームのサッカーの話で、パス回しの時などの声掛けが声ではうまく伝わらないから代わりに身振り手振りでやっていますということで、他のところはすべて同じルールでやっていますという風に見えたものがあった。耳が聞こえる方が変に壁を作らないで関わった。聞こえない側が、いつも耳が聞こえないというので一つの集団として社会の中で取り扱われていて、お互いが変に壁を感じていたのが感じないで関わったのでよかった、という話を聞いたことがある。どうやっていったらお互いが同じところを使い合えるかな、というセンスで考えてもらいたいと思う。岡山で生まれた点字ブロックが世界に広がった。それは発明者に目が見えない友人がいて、その人が何に困っているのかなという話をよく聞いた結果として、道でどこで止まるか分からないとか、どこを歩いたらいいか分からないという話を聞いて、なら凸凹してればいいよねと思いついたという。実際その友人と話をした結果として点字ブロックを開発した。ただ道に埋めれば済むし、その結果として今までだったら、どこかに行きたいときには他人の助けをもらわないと行動できなかったかもしれない方々が、自分だけの力で外出して歩けるようになった。

3. 岡山県立岡山工業高等学校学校 「産官学で取り組む『岡山道路パトロール隊』」

★SDGs 17の目標該当番号：4.8.9.11.12



<守都>

- ・最先端のITツールを活用して社会課題を解決していこう、そしてそこにある様々な心理的な負担感であったり、実際の業務に係る負担もICTの技術を使ってイノベーションを起こして変えて行こうというところを色々提案していただいた。こういうこともできるかなというところを考えて

みたが、今スマホで揺れを検知して道路の状態を把握するというのがあったが、例えばそれをラズベリーパイとかを利用してごみ収集車であったり運送業者さんとかタクシーの車両にその機材を取り付けて、普段から街中をくまなく走っているそういう業者さんに協力していただくことでより多くの情報を収集する、ラズベリーパイにSIMカードを取り付けるなどして常時リアルタイムでデータを収集することも可能かもしれないし、あるいはそれが通信料がかかるから負担感が大きいということであれば、一定期間ラズベリーパイに保管したものを定期的に情報収集して分析していくこともできるかと思う。それをやっている自治体がもしかしたらあるかもしれないのでそういったところからヒントをいただきながら岡山で取り組めることを実践していけるといいのかなと思う。

- ・高校生や市民の方がスマホなどを使って、ここの道路に亀裂が入っているなんてことを情報を発信していくことができると、こういうところに問題があるんだなというところをみんなが街中を歩く時にも街に意識をもって暮らしていくことができるかなと思ったが、それに対して何かインセンティブみたいなものがあつたらより面白いかなと思った。例えば道路に亀裂が入っているところを写真に撮ってどこかに送ると岡山ワクワクポイントみたいなのが貯まって、そのポイントで岡山の施設を無料で使えるとか、温水プールが使えるとか、体育館が無料で使えるとかいうインセンティブが加わっていくと人の善意だけに頼らずに私たちがやってみたい、やりたいと思うような自発的なモチベーションによってその活動が維持されていって、それがまたよりよい住みやすい社会づくりのための循環が生まれていくのかなということも感じた。

<岩田>

- ・人材の育成に関してすごくいい取組。SDGs は社会を変革すること。IT 化はあくまでツールであって、それを使ってデジタル社会を変革していく DX (デジタル・トランスフォーメーション) をどんどん進めていき、IT を使って世の中を変革していくことがすごく求められている。また他にも岡工の卒業生だからこそ考えられる IT を使って何か社会を変革していくアイデアをどんどん出していきたい。

<重成>

- ・岡山から全国に広がっていくのかなと思うと、すごく自慢できる仕組みが出来上がっているのではないかと感じた。スマホといった皆さんが使い慣れたものでできるという効率的な作業で進んでいるようだし、皆さんがやることによって点検の回数が増えると、道路利用者としてれば安心安全がさらに増していく。道路の安全面だけでなく景観面というところも意識してしまった。街路樹の辺りを見るとごみが落ちていたりとか草が生えていたり。そういったところも同時並行で若い力を借りながらできる方法はないかなと思った。さらに広がっていく取り組みになることを期待したい。

<狩野>

- ・頑張らなくてもできる、という工夫は大事だと思う。誰かが頑張らないといけない方法であると、

人口も減ってきているし、続けられなくなる。運ぶ人に一緒にやっていただくというのは素敵なアイデアだと思った。

4, 山陽学園高等学校 「瀬戸内海の海洋ゴミ問題の解決に向けての取り組み」

★SDGs 17の目標該当番号：4.10.12.14.17



<田賀>

- ・社会問題を自分化するのは難しいが、効果はあることだと感じる。公民館なんかで発表するともっと意識の高い方々が参加されている。意識の高い人が100頑張るより無関係だったり無関心だった人が1でも2でも行動を起こせるようになるということが大切かなと思う。今まで自分事化作戦ということでごみがどこに落ちているか、用水路のマップとか作られていると思うが、例えばそのマップを作る時に最初は意識の高い方からかもしれないが、住民の方に一緒に参加してもらって調査段階から関わっていただくとか、写真でどれくらいの量が捨てられているとかそういうことも目で見てすぐにパッと見て意識の低かった方々も一瞬ドキッとするような伝え方をしてみても効果があるのかなと思った。
- ・商業施設での展示もされていると思うが、その時に作った側の責任として、もし買ったスーパーのロゴが入っているごみがあったら企業の方に報告して意識をもってもらったりとか、作った側が売って終わりではなくて自分のお客様がどのような行動をしているのかということにも意識を向けるきっかけが提供できるのかなと思う。今の日本の売り方としては全てパッケージされていて、もちろん衛生面の問題もあるかもしれないが、多分近所の方が利用していると思うので、例えば家から持ち運びできる弁当箱とか何か容器をもってきてもらって量り売りができるような取組を促したりということも考えられるかなと思った。
- ・高校として長年受け継がれている活動だと思うので手法や研究の仕方も蓄積されていると思うので、それを他の高校とかと連携していろんな地域に派生できるようなことができれば県内県外にもどんどん広めていけるいい活動かと思う。

<藤木>

- ・世界にプラスチックごみが大変だという問題提起をした活動だと思う。問題があるということは皆もう分かった。それをどうするのか、自分事にするということが取り組むテーマなんだろうと思

う。調査したところの人たちをどのようにして巻き込んでいくか、公民館なら公民館の人たちが数字とか写真でもいいが調査結果を見せてもらって、前はこうだったけどこれだけ改善されたとか、何かやっていくことによって動機づけができてきて、それが住民の皆さんの活動として高校生も一緒に取り組んでいくという形になっていけばいいなと思った。

<守都>

- ・先輩方から脈々と続くこの活動をさらに新しい課題にどう取り組んでいくか、どう解決策を見出していくかというところを継続してやっていく難しさだったり面白さだったりを実感されていると思う。
- ・実際廃棄されたごみの展示を見させてもらったことがあって、実際に海から自分の目の前に戻ってきたごみを見ると、こんなものが海の底に沈んでいたんだというので、心にズバツとくるインパクトがあった。ある人が、人は頭で理解して心で納得して生きる生き物なんだと言われていたが、プラスチックごみを減らしましょうとか、海洋ごみの問題をみんなで解決していきましょうということを頭でしっかり理解することも大切だが、自分の心が本当にそこに向いて、海がきれいになったら自分たちの環境はどんなふうになるんだろうとか、自分の手を離れていったこのごみの行く先、このごみの一生はどのように終えていくんだろうというところを本当に感情の部分でしっかり受け止められるようになっていくと、理解と自分の感情とが一致してその先の行動につながっていくんじゃないかと感じた。実際に海で回収したごみを皆さんに見ていただくというのは非常にインパクトがあるし、皆さんの次のアクションの背中を押してあげる大事な役割があるんじゃないかと感じている。
- ・ごみを減らす、あるいはプラスチックのパッケージを何か再生可能なものに変えていくとか、もう少し環境に配慮したものに変えていくというのは企業側の責任であったり様々あると思うが、一方で私たち個人が消費者という立場でいかに自分たちのライフスタイルを、自分たちのこうなってほしいなという未来の姿を想像しながらそこに向けて変えていけるかということも課題の一つだと思うので、自分たちの身の回りにある課題を自分事化して納得して自分がライフスタイルを変えて行くアクションを一步踏み出していく人になりたいと思う。
- ・積み上げてきたデータであったり分析であったり学んできたことがあると思うし、それをさらに続けていただきたいなということと、それを受け取った人たちがしっかりアクションを起こせるような地盤を整えていくということも一消費者としてやっていきたいなと思った。

<狩野>

- ・他の人たちに自分事化してほしいという時に、自分も自分事化していないと言葉がうつろになる。自分事化する時に映像があるということがすごく力になると聞いた。テレビは映像化するという力が強いので人を動機づけることができるという。もちろん、そのあとは文字などで内容を深める必要はある。だが、自分で浜にあるペットボトルを目にして初めて感じ取ったのは映像の力。ということは、他の方たちに自分事化してもらう時に、自分の記憶の強い印象のある映像を活用するというアイデアはどうか。用水路という上流の映像があって、それと同じような種類のものが島にた

どり着いている、というビデオのようなものがあると、自分事が進むのかもしれない。自分ではどういうふうにして自分事化したか、ということは、他の人に対して自分事化をしてもらおうという時に活用できると、素敵な体験になると思う。

5, 岡山県立岡山東商業高等学校② 「制服残布の活用について」

★SDGs 17の目標該当番号：8.9.12



<高田>

・ユニホームを毎回作っていただいで毎年変わるという意味では考えていかないといけないところだが、今着ているものもスポンサー様からの商品だが、クラブチームでたくさんのスポンサー様についていただいで運営している。地域であったり企業の課題の解決がシーガルズを応援していただいでいる企業や皆さんへのお返しとなるような活動をしていかないといけないので、こうした課題をどんどん出していただいで、こういったことはどうですか？みたいな提案とかいただけると嬉しい。ユニホームは特殊だが、制服の残布でできるグッズを考えさせてもらったり、そこに東商さんとシーガルズのロゴを一緒に載せたりすることもできるんじゃないかなと思う。何か提案があれば一緒に取り組んでいきたい。

<田賀>

・セネガルという国の布を使ってブランドをしているが、それもきっかけは現地で服を作った余りの布からアップサイクルして何か作ろうということから始めたので共感できる。服を作るとどうしてもカーブが出てきてしまったりとか、どうしても大きな面積で残らない布が出てくるのは仕方ないと感じている。そういう形が一律でない端切れをどう活用するかはアイデア次第だと思っていて、パッチワークをすとか縫わずに張り合わせることも考えられる。今回制服ということで特殊なというか、学校によって素材が違ったりとか模様が入っていたりロゴが入っていたり、普段リサイクルとカリユースできるものとはちょっと考え方が変わってくるなと感じた。卒業生をターゲットにというのはいい考えかなと思ったのと、卒業すると使えなくなるという側面が制服にはあると思うので、後輩に着てもらおうというのも限度があるし、端切れ、残布以外にも着終わった制服をどうするのかという点もブランドというか衣類業界の課題かなと感じている。そのまま使うというのは難しいと思うが、岡山の企業でニューノスさんというところがあるが、そこはデニム

を何か特殊な技術を使って別の布ではない素材に生まれ変わらせるということをしている。例えばそこと連携ができるのであれば回収した卒業生の制服とかを素材として作り変えて学校の壁紙にするとかオブジェに使うとかいうやり方もあるかなと考えた。あと制服という点で言うと、海外に目を向けてみて日本にはない素材であったり形でコスプレをしたい方やマンガが好きだったりする方がもしかしたら買いたいと思うかもしれないので、日本以外にも目を向けてみるというのも着眼点としてはありかなと感じた。

<藤木>

- ・ファッションは難しい。ファストファッションで伸びてきているところはユニクロさんはじめいろいろあって、長く使った方がいいんだけど、安い服があったらちょっと買いたいなとか。ファッションの業界全体がサステイナブルということにもすごく舵を切っていることは間違いないと思う。

<狩野>

- ・岡山の制服は確かに有名なようだ。群馬で制服メーカーやっている人が、関連の全国大会は岡山であるとかおっしゃっていたのを聞いたことがある。ということは、もし岡山から面白いものを出せると日本全体に広がる可能性があるのかなと思っていい工夫を期待している。
- ・新しいものを作る時にどうしたら作れるのか調べてみたら、ダーウィンの進化説と同じだという。いろいろ試した結果、うまく行くものが残る。だから、今回いろいろ試してくれているが、他にもいろいろ試してみてほしい。提案をするときに、可能性のある良い面と可能性のある悪い面と両方を添えて提案することによって、選ぶ側が中立に選べるという考え方があると思う。ものごとを変えて行くときに「～という理由があるから、変えたほうが良いと思う」というのに加えて「しかもそれをやったら、～という良いことも、～という悪いこともあるとは思いますが、それを超えて、こっちの方が、～だから、より良いと思いませんか」、というもっていき方をすれば、受け止める側になってもよりよく考えられるだろうし、出す側としても声が届きやすくなるかなと思う。

6, 岡山県立瀬戸高等学校 「EVERY PAN ～X'mas cake～」

★SDGs 17の目標該当番号：10



<高島>

- ・SDGs との関連性が伝わるような販売方法にしていきたい。SDGs につなげていく中では誰のために何のためにということは明確にしておいた方がよいと思う。
- ・果樹園も廃棄されるような商品にならないものもいっぱい出てくると思う。そういったものを活用することで廃棄されずに商品に変わっていくようなものがないのかなという観点であったり、学校の周辺や地域の中で消費されていくようなものという観点であったり、企業と一緒にやるということは非常に大事なことなので、いろいろな業者さんとつながってってもらったらいんじゃないかと思う。皆さん高校生なので、もっとアグレッシブに協力してもらう、いろんな業者さんを巻き込んでいけるというのが高校生の皆さんだからこそできる、1社だけだとなかなかできないことがあるが、皆さんがコンセンサスを取っていくことによってまた新たな商品がもっとより良い付加価値をもって買ってもらえる。
- ・美味しいということはもちろんお金を出せば買えるものもいっぱい出てくるので、そういったものにプラスこういう価値がある、その価値が何なのかというところが自分たちで分かって販売できているとよりお客さんにも伝わるし、他のものより高くてもそこに選ぶ価値が生まれてくるんじゃないかと思う。ジャムタンさんの服にしてもかわいいのは見たら欲しいと思うが、そのバックグラウンドの中にはアフリカの人たちが作っているというもので、給料の安定的な向上を目指していくというものは、もちろん目の前には見えないがそういうことに寄与できるということが価格に付加されたりとか、そういうものの価値がケーキ一つにも取り入れることができると思うので、是非もう少しいろんな観点でやればより購買しやすくより付加価値のあるものになっていくのではないかと思う。
- ・ちゃんとしたストーリーづけだったりとか、この商品を買うことによってどういう社会的意義があるかということも含めてお金を出してくれるのが企業だったりするのかなと思う。全てのお客さんが個人のお客さんだけではなくて、関わってもらった企業が多ければ多いほどそういったことをお返しできるということにもなると思う

<高田>

- ・スイーツそのものがみんなを笑顔にして幸せにするものなのと、生産者の農家さんとか作られた人の思いをここに乘せて販売するというので、それを高校生の皆さんがされるということは素晴らしいことだと思うし、こうした取組が次の後輩たちにつながっていき、これで終わらないような、続けていくこともいろいろ考えて取り組んでいきたい。

<守都>

- ・アレルギーがある人だったり様々な理由で高カロリーなスイーツを口にすることのできない方々に思いをはせて何か商品を作ってみたいと思われたことは素晴らしいしアレルギーを持つ身にとっては嬉しいこと。食べることは生きること、よりよく食べることでよりよく生きていくことができる。よりよく食べるとはどういうことだろうということを改めて考えさせられた。
- ・エシカル商品に通じる話題かと思うが、最近の消費の傾向としてモノではなくコトにお金を使う

人が増えているなど感じていて、それは見た目がきれいだからとかデザイン性が優れているということだけでなく、そのものが自分の手元に届くまでにいったいどんなストーリーを経てきているんだろうということだったり、そのものを購入して使うことでどういう社会的インパクトがあるんだろうということだったりとか、あとは作り手のどんな思いでこの商品が作られたんだろうという自分の心と紐づくようなものに対して人はお金を使う、そういう社会の変化が始まっているなどということを実感している。このクリスマスケーキを実際に販売する際には、何でこれを作ってみようと思ったのかという皆さんの思いや関わってくださった皆さんの声が聞けるようなものを発信していただきたい。もしかしたら皆さんのインスタグラムで発信されるということもあるかもしれないし、ケーキを買われた方に何かQRコードみたいなものがついていて農家さんや皆さんのメッセージが聞けるとか、様々な情報が得られるようになっていくと、それを選ぼうとしている人たちの心にパーソナルストーリー、思いやストーリーのバトンがしっかり渡っていくんじゃないかと感じた。通常だったら口にできない人たちに思いを馳せて商品が作られるということは、その人たちに対する愛情だったりとか温かい思いのつながりみたいなものがあると感じていて、作る方も食べる方もその思いをしっかり結び付け合っけて口にすることができたら、それはすごい商品以上の価値を生むのではないかと思う。だからこそ皆さんの思いやストーリーをしっかり発信していくことも考えていただけたら嬉しい。

<狩野>

- ・思い通りになる場合の備えだけではなくて、もし思った通りに行かなかった時に、次どうやってリカバーしていこうかと考えておくこともしておく、心の平安のためにもよい。

7, 岡山学芸館高等学校 「環境政策に関する研究」

★SDGs 17の目標該当番号：11

※発表辞退

8, 岡山県立岡山南高等学校 「制服の廃材で作る防災グッズ」

★SDGs 17の目標該当番号：12.13



<藤木>

- ・ファッション業界というのは SDGs というのが一つのきっかけなのか、流れが変わっているのか

なという感じがする。今まではとにかく新しいもの、素材にしても何か新しいものとか、今まで使っていなかったものをどういう風に使うとかいうことがファッションのリーダーだったのが、例えば衣服を長く使うというのはどうなのか？世界中でそう思っている人が増えているのかな、という風に業界は思っているのではないかなと思う。安いものをたくさん供給するというのは、世の中に安いものを求める人が多いので、ある意味仕方なくやっていたところがあったが結構大変。本当にちゃんとしたものをそれなりの合理的な価格で世の中に出してそれが適正に評価されて買っていただけというのが、やはりメーカーとしてもいいのかなという感じはする。根本はファッションというものを皆がどう考えていくのかということが、多分これからの皆さん方、後輩を含めてテーマになっていくのかなと思う。

<田賀>

- ・ファッション業界でどういう課題があって SDGs の達成のためにどういうことをしていかないといけないのか、作り手として考えるべきことはたくさんあるということを改めて感じた。
- ・ファッションと防災を組み合わせるという考えが素晴らしいというか、いろんな業界を組み合わせるといいアイデアだと感じた。隅々まで検証されている点は素晴らしいが、強度の面とか他の素材に負ける点もあると思うので、実際に使うとしたらもっと検証すべき点はあると思うし、他に県内だとデニムの産業であったり倉敷の帆布であったりとか他の素材もあると思うので、制服に限らずいろんなファッションをされている方の余った布を使うことによって、もしかしたら柄のあるカワイイものが防災グッズとして、地味なものだけではなくて、被災の生活をしていく中で目にも楽しいようなグッズも展開できるかなと感じた。
- ・製品化し置き場所として避難所に備えておくということだが、実際もしこれを作るとしたらその費用はメーカーさんが自主的に作られて配布するのか、学校側がお金を出して用意するのか、もしくは行政側がここに価値を見出してここにお金を出してくださるのか、そういう商品化する費用についてどういう風に話を進めているのか。

<高島>

- ・ヒアリングから検証とか素晴らしいと思う。防災グッズという観点もなかなか企業としてそのニーズに簡単には突っ込めないなというところなので、これも価値があると感じた。いろんな業者さんを交わせることができるのは皆さんだけなのかな、僕がやってもそれはできないことなので、みなさんだからこそできることというのは、他にも逆にコストにこだわらない、ここは企業だとどうしてもコスト意識の中で SDGs を考えてしまうので、失敗してもいいというところ。イノベーションというのは破壊的発想だと思っていて、今までやっていることから一歩進ませるためには今までの既定概念の中だけではなくもっと広い見識であったり知識をもっているいろんなアイデアをやってみて、失敗してもいいと思うのでやられたらいいと思う。せっかく服飾デザインにいらっしゃるので本当に使いたいデザインであったりとか、そうしたものにも突出してこだわったらいんじゃないかなと思う。
- ・防災という観点では、災害が起きた時に使うという観点だけでなく逆に普段から使えるよう

なものの中で、災害があった時にそれが防災に役立つという観点もあると思う。常に普段から普段使いできるようなものが防災で違う活用になる、7変化のうちの8変化目を普段できるようなものにしてもらえると、より一般の方にも受ける、備蓄するという考え方ではなくて、常に使っている中からそれが災害が起きた時に活用できるという観点もあるのかなと思う。

<狩野>

- ・イノベーションという言葉の意味がもともと何だったかという、ヨゼフ・シュンペーターという人が作り出した言葉だと言われていて、「新しい組み合わせ」という意味だった。布の残りのところを組みひもにしてしかもそれを防災につなげるという組み合わせが、他にはない、新しい組み合わせ、ということだったと思う。次は皆さんの後輩に他にどんな組み合わせを提案してみるか。両方とも昔からあったものでいいが、今まで誰も組み合わせることがなくて、しかもそれが必要としている人がいるのに物がなかったところ、ニッチというが、そういうところにピタッとハマると、急に拓ける。企業の方々は、それがニッチかもしれないと思っても、利潤が出るかわからない時点ではそう簡単には試行へ踏み出しにくいと思う。であれば、そういう試行を、利潤がなくてもよい学生のうちに試してみてくださいとよいと思う。
- ・目標は製品化となっている。最終的に売れる物にしていくためにはお客さんがどこにいるかという問題がある。その時に組みひもと防災という今の組み合わせでは、どうやってお客さんを探してこれるか。岡山の中だけだと利潤も乗せられるだけのお客さんがつかないのであれば、災害は残念ながら最近全国各地で起きているので、そういうところに行っても探している人がいたら使ってもらえるような仕掛けを考えるとする。例えば、インターネットの検索ワードでその言葉を入れればこの商品しか出ないというような組み合わせを考えておくとか、あるいは組み合わせの片方は困っている人が検索してくれば、そこに検索されてくるようにするためにどんなキーワードにすればよいか考えてみてはどうかと思った。
- ・今は幾分学校の課題としてやっていると思う。先生から渡された課題をそのまま言われたとおりやっているだけだと、先生方の考えておられる範囲から出られないだろう。しかし、そこから引き受けた皆さんご自身が何を加えられるかなと思って進めると、すごくいいものに化けたりすることがある。